

地域医療連携室

# フレンディーだより

*Community medicine cooperation room*



感染症対策研修 (H26.12.16)



**2015**  
**vol.47**

H27.3 発行

黒部市民病院 黒部市三日市1108-1

E-mail : friendly@med.kurobe.toyama.jp

# 核医学PET画像センターについて



核医学PET画像センター 部長 清水 正司

当院に核医学科が開設されたのは、昭和49（1974）年9月1日で、当時はまだ黒部厚生病院の時代でした。核医学科がある病院は、富山県内では非常に珍しかったと聞いています。その後、PET/CTの導入に伴い、平成18（2006）年9月1日に富山医科薬科大学医学部から、常勤医として私が赴任し、同年10月2日からPET/CTが稼働しました。平成26（2014）年4月1日には、診療科名の変更に伴い、核医学科が核医学PET画像センターとなり、今日に至っています。

当センターでは、放射性医薬品を使った核医学検査及び核医学治療を行っています。現在、画像診断用の放射性医薬品として40数種類が販売されており、当センターではそのほとんどを使って、様々な検査が施行可能です。代表的な検査として、PET検査、骨シンチグラフィ、脳血流シンチグラフィ、心筋血流シンチグラフィ、ガリウムシンチグラフィなどがあります。

最近発売された放射性医薬品としては、パーキンソン症候群やレビー小体型認知症の診断に有用なダットスキャン静注（ドパミントランスポーターシンチグラフィ）があります。核医学画像診断部門は、新たな放射性医薬品とe-ZIS等の画像統計解析の開発が進んでおり、高齢化社会を迎えて、今後特に、認知症の分野で貢献できると考えています。

核医学治療用の放射性医薬品としては、現在、3種類が販売されており、当センターでは、その中の2種類（放射性ヨウ素、放射性ストロンチウム）を使った治療を行っています。放射性ヨウ素治療は、昭和16（1941）年に米国で9歳の女児のバセドウ病患者さんに初めて施行され、すでに70年以上の歴史があります。米国の第41代大統領ブッシュが夫婦でこの治療法を受けていたことは有名な話です。妊娠中や授乳中の患者、6か月以内に妊娠を希望する患者、20歳以下（米国では、10歳以下）の患者を除く、バセドウ病による甲状腺機能亢進症の患者が適応となります。日本では、欧米のように甲状腺機能亢進症に対する第一選択の治療法にはなっていませんが、抗甲状腺薬で副作用が出現した患者や大量の抗甲状腺薬を使っても甲状腺機能が正常化しない患者が最も良い適応です。また、糖尿病や心疾患等の合併症を有する患者、甲

甲状腺腫が増悪する患者、抗甲状腺薬を減量するたびに増悪を繰り返す患者なども良い適応です。甲状腺の重量が80gを超えると放射性ヨウ素治療の成績が悪くなり、1回の治療で治りにくいために、早めの治療法の変更が理想的です。

放射性ストロンチウム（メタストロン注）を使った骨転移疼痛緩和治療とは、癌による多発性骨転移の痛みを和らげる治療です。骨髄抑制を伴うような化学療法との併用は困難ですが、放射線治療、ホルモン療法、骨髄抑制を伴わないような化学療法との併用が可能です。高額な治療法ですが、1回の静脈注射で済む簡単な治療法です。治療効果があれば、その効果は、3～6か月も持続します。



# 地域医療連携ネットワーク (新・扇状地ネット)について



内科 部長 中田 明夫

当院では2006年に地域医療連携ネットワークを構築、扇状地ネットと命名し稼働を開始しました。扇状地ネットを利用する事で同意の得られた患者さんの電子カルテ内の医療情報をかかりつけの先生の診療所内のパソコンで閲覧する事が可能となり、その患者さんの診療に役立てて頂けるようになりました。扇状地ネットは2013年3月の時点で延べ1万人を超える患者さんの情報でご利用頂きましたが、院内医療情報システムの全面更新に合わせて扇状地ネットも新・扇状地ネットとして全面的に更新しました。新・扇状地ネットではこれまで完全一方向であった旧扇状地ネットの機能に加えて一部双方向の機能も加わりました。これによって紹介患者さんの紹介予約やCTスキャンやMRI等の画像検査の予約をオンラインで行って頂く事が可能となりました。もちろんこれらの予約はこれまで通りフレンディーにファックスを送信して頂く事も可能ですが、時間外や土曜日等の場合にはフレンディーからの予約決定日の連絡は翌実診療日の日中までお待ち頂く必要がありました。扇状地ネットのオンライン予約機能を用いる事により土曜日でも患者さんを前に、予約空き具合を確認しながら患者さんの都合の良い日時に予約をその場で決定する事が出来ますので、患者さんに予約日時を改めてお知らせするというわずらわしさがなくなります。もちろん、ファックスでの予約、オンラインでの予約には一長一短がありますが、選択肢が広がる事で、その時々で使い分けて頂けるようになりました。

扇状地ネットが稼働した当時は北陸で他にこのようなネットワークを構築している所はありませんでしたが、近年は国の助成金の利用等により、全国的に情報提供病院が複数の大規模な医療連携ネットワークが開始されるようになりました。しかし、その情報開示範囲については病院間で差が大きく、一般的にレントゲン画像や血液検査結果等の客観的なデータについてはほとんどの施設が開示しているのに対して、画像レポートや日々の医師の診療記録については開示しない施設が多くなり病理レポートに至ってはほとんどの施設が非開示としており、せっかくネットワークを利用してその患者さんの最終診断名すらわからないという事も珍しくありません。扇状地ネットではその運用開始より電子カルテ内のすべての情報を閲覧可能にするという方針としており、検査レポートから日々の医師の記録、看護記録についても開示しており患者さんの状態を把握する上できっとお役にたてるものと自負しております。現在扇状地ネットに登録されていない先生方でもご興味がありましたらぜひお問い合わせいただければ幸いです。

## 患者様の思いを支える音楽会 ～ブラジル音楽の魅力伝えたい～

去る12月19日、当院講堂にてクリスマス音楽会を開催しました。

長期にわたる入院中の患者様で、富山ではまだまだ数少ないブラジル音楽の演奏者の方がおられました。その患者様は、多くの人々にブラジル音楽を知ってもらい、好きになってもらいたいという思いでこれまで音楽活動に取り組んでこられました。退院が難しい状態ではありましたが、「お世話になっている病院のみなさんに音楽を聴いてもらいたい」との希望があり、クリスマス音楽会を開催することになりました。

ギターと鍵盤ハーモニカのユニットで、バラードから重層的なリズムで情熱的なあらゆる種類のブラジル音楽を、アンコールを含め全8曲、患者様は一曲一曲とても大事に演奏しておられました。当院の職員をはじめ、入院・外来患者様など多くの方々が鑑賞され、ロマンティックな世界観に浸り、美しい音色に聴き入っていました。

職員からは、「ブラジル音楽は情熱的なものと思っていたが、色っぽくとても素敵だと思った」「鍵盤ハーモニカの音色が力強く、強弱があって、表現力に感動した」「セピア色の情景が浮かんできて切ない気持ちになり、涙が出てきた」「リフレッシュできた」「聞いたことのある曲がたくさんあった」「ブラジル音楽に興味を湧いた」「元気をもらえた」などのたくさんの声が聞かれました。演奏を終えられた患者様も「演奏できて嬉しい。また是非やりたい」と笑顔で話されていました。

今後も患者様が希望されることを可能な限り実現し、患者様が持っている能力を引き出すことで患者様自身、そしてみなさんも元気になれる、そんな支援を行っていきたいと思います。



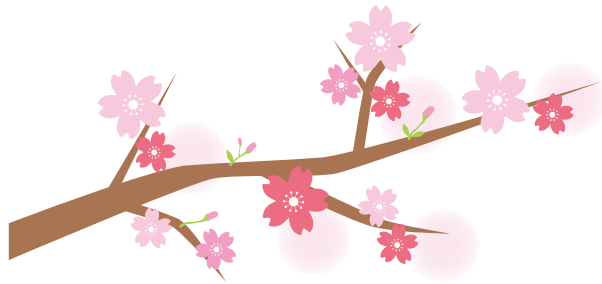


## 第6回新川地域連携パス 脳卒中症例検討会

昨年12月2日新川地域における連携パス脳卒中症例検討会が開催されました。

今回は当院にて脳出血で入院された患者が早期に丸川病院へ転院し、要介護1の状態まで回復し在宅復帰できた症例でした。回復期リハビリ病院担当者においては急性期の状態から回復してきた経過を知ることができたこと、急性期病院担当者においては入院当時の患者がリハビリによって回復した変化を知ることができたと感想がありました。それぞれの役割による苦労話も聞かれ自由な発言の機会があったことで他職種間の理解と連携が強まったように思われました。共通のパスを使用し、連携パスの改善とともに他職種連携が更に深まっていくよう症例検討会を重ねていくことが望ましいと思われました。

症例検討会は約1時間にわたり行われ、とても有意義な時間であったと参加者の声が多く聞かれました。



### 講演・勉強会のご案内

#### 1. 新川胸部疾患検討会

日時：毎月第2木曜日  
午後6：30～  
午後8：00  
場所：本館3階 指導室

#### 2. オープンベッドカンファレンス

日時：偶数月の第2水曜日  
午後6：45～  
午後7：45  
場所：本館3階 指導室

#### 3. 内科カンファレンス

日時：毎週火曜日  
午後6：40～  
場所：本館3階 指導室